

表3 岐阜県住民調査における精神安定剤・睡眠薬の問題のある使用および非医療目的での使用の頻度

	人数	A. 処方薬の 2週間以上の 服用		B.(Aのうち)処 方の非遵守ま たは習慣性の 自覚		C.(A以外で) 非医療目的で の6回以上の 使用		不適正使用 (右BCのい ずれか)	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全数	1305	110	8.7	44	3.3	38	3.1	67	5.1
性別：									
男性	567	46	8.3	20	3.5	17	3.1	30	5.3
女性	738	64	9.0	24	3.3	21	3.0	37	5.0
年齢：									
20-34歳	183	2	1.1	1	0.5	2	1.1	3	1.6
35-49歳	261	7	2.8	2	0.8	6	2.4	8	3.1
50-64歳	457	40	9.0	12	2.6	12	2.7	21	4.6
65歳+	405	61	15.7	29	7.2	18	4.8	35	8.6

—：該当者なし。

表4 過去12ヶ月間の精神安定剤・睡眠薬使用者38名中の使用薬物（複数回答）

	使用者数	(%)
使用の理由：		
不眠	12	(32)
不安・悩み・ストレス	9	(24)
イライラ・落ち着きのなさ	4	(11)
血圧・心臓病	4	(11)
自律神経症状・体調不良	3	(8)
抑うつ	3	(8)
痛み	2	(5)
薬物名：		
ハルシオン	6	(16)
デパス	4	(11)
リーゼ	3	(8)
コンスタン	2	(5)
ベンザリン	2	(5)
レンドルミン、エリスパン、セルシン、セパゾン、 ユーロジン、ルジオミール	各1	各(3)
不明	18	(47)

表5 岐阜県住民調査におけるDSM-III-R診断による精神安定剤・睡眠薬の乱用・依存症の生涯および6ヶ月有病率（%）

	対 象 者数	精神安定剤依存症		精神安定剤乱用		依存症+乱用	
		人数	有病率%	人数	有病率%	人数	有病率%
生涯有病率：							
全数	1305	3	0.2	3	0.2	6	0.4
性別：							
男性	567	-	-	3	0.5	3	0.5
女性	738	2	0.3	-	-	2	0.3
年齢：							
20-34 歳	183	-	-	-	-	-	-
35-49 歳	261	1	0.4	1	0.4	2	0.8
50-64 歳	457	-	-	1	0.2	1	0.2
65 歳+	405	1	0.2	1	0.2	2	0.5
6ヶ月有病率：							
全数	1305	2	0.2	2	0.2	4	0.4
性別：							
男性	567	-	-	2	0.4	2	0.4
女性	738	2	0.3	-	-	2	0.3
年齢：							
20-34 歳	183	-	-	-	-	-	-
35-49 歳	261	1	0.4	-	-	1	0.4
50-64 歳	457	-	-	1	0.2	1	0.2
65 歳+	405	1	0.2	1	0.2	2	0.5

－：該当者なし。

* 生涯有病率：調査時点までの生涯に診断規準を満たす状態を経験した者の割合。6ヶ月有病率：過去に診断規準を満たす状態を経験し、かつ過去6ヶ月間に乱用・依存症状を経験した者の割合。

表6 追加電話調査における過去12ヶ月間の精神安定剤・睡眠薬使用者（28名）中の使用薬物（複数回答）

薬物名	使用者数	(%)
ハルシオン	8	(29)
デパス	3	(11)
コンスタン	2	(7)
ベンザリン	2	(7)
ロキソニン、チネラック、ドグマチール、アマゾロン、 リスパターール、タスモリン、ユーロジン、ルジオミール、 リーゼ、ソラナックス、ハイミナール、アモバン、 レンドルミン、バランス、チクロバン	各1	各(4)
不明	8	(29)

表7 追加電話調査における過去12ヶ月間の精神安定剤・睡眠薬使用者の入手方法、
入手先、服薬量の指示

		人数	(%)
入手方法	自分に処方された薬	24	(86)
	自分に処方された薬ではない	3	(11)
	# 不明	1	(4)
入手先	精神科	9	(32)
	内科	12	(43)
	脳外科・神経内科	1	(4)
	産婦人科	2	(7)
	医師以外	3	(11)
	不明	1	(4)
医師から指示された服薬量*	必要なだけ	3	(11)
	決まった量	17	(75)
	ある範囲内で	4	(14)
最大量の指示**	あった	2	(29)
	なかった	5	(71)
これまでの服薬期間	6ヶ月以内	2	(7)
	7～12ヶ月	7	(25)
	1～2年	6	(21)
	3～9年	5	(18)
	10～15年	7	(25)
	不明	1	(4)
副作用	依存性が心配	5	(18)
	起床時の頭痛	2	(7)
	ぼーっとする	1	(4)
	薬物の効果がない	3	(11)

家族からもらった2名、回答拒否1名.

* 医師から処方されて入手した者(24名)についての内訳.

**医師から指示された服薬量が「必要なだけ」あるいは「ある範囲内で」の者(7名)にこの質問を行った.

付録：WHO 薬物疫学モジュール日本語版

※対象者の氏名と番号を、参照カードから転記しておくこと。

対象者氏名	番号
調査員氏名	日付 平成 年 月 日

ストレス、神経、気分、こころの健康に関するお薬の使用経験について

パートⅠ 電話面接開始

Q1. 先日おうかがいしてお話をうかがった調査員が、あなたがストレス、神経、気分、こころの健康に関する問題のためにお薬をのんだり、使ったりされたことがあり、それについて追加でお話をうかがってもよいと言っておりました。私は、薬に関する調査を専門にしている看護婦ですが、そのお薬について10分か15分ほど、電話でお話をうかがってもいいですか。

- 1. はい（Q2へすすむ）
- 2. いいえ（電話面接終了）
- 3. ストレス、神経、気分やこころの健康に関するお薬を飲んだことはない（電話面接終了）

Q2. そのお薬の名前はなんですか。（「他にはありませんか」とたずねること。もし名前がわからなければ、錠剤の色（および形、記載されているマーク）をたずねる。もし錠剤でなければ、こな薬、注射、鼻からの吸入薬など、服用方法を記録する。

以下に、それぞれの薬の名前、あるいは特徴を記入する。

- 1. _____
- 2. _____
- 3. _____
- 4. _____
- 5. _____



それぞれの薬について、次ページからの質問をしてください。

※念のために、対象者の氏名と番号をここにも転記しておくこと。

対象者氏名	番号
-------	----

パートII それぞれの薬についての記録

薬の名前または特徴を転記する： _____

Q 1. (最初に/次に)このお薬についてうかがいます。それは、誰かから処方されたお薬ですか。

1. はい 5. いいえ (Q 7へ) 8. わからない (Q 7へ)

Q 2. それは、あなたに処方されたものですか、誰かほかの人に対して処方されたものですか。

1. 本人 (Q 3へ) 2. 誰かほかの人



Q 2 a. (もしはっきりしていない場合には) 誰ですか (誰に処方されたものですか)。

1. 家族・親戚 2. 友人 3. その他 (具体的に記入) :

(※いずれの場合もQ 1 0へすすむ)

Q 3. 誰があなたに処方したのですか。お医者さんですか、そのほかの専門家ですか。

1. 医師 2. そのほかの専門家 (Q 4へ)

Q 3 a. 処方したのは何科のお医者さんでしたか。精神科医ですか、内科のお医者さんですか、その他お医者さんでしたか。

1. 精神科医
2. 一般開業医
3. 内科医
4. 脳神経外科医や神経内科医
5. 産婦人科医
6. その他 (具体的に記入) :

(※いずれの場合もQ 1 0へすすむ)

Q 4. 医者以外の、どんな専門家でしたか。看護婦ですか、心理の専門家ですか、その他の専門家でしたか。

1. 看護婦
2. 心理の専門家
3. その他 (具体的に記入) :

Q 5. その (専門家) は、お医者さんの指示の下で働いていたのですか。

1. はい 2. いいえ (Q 1 0へ) 3. わからない (Q 1 0へ)

Q 6. その（専門家）がお薬を処方する前に、指示を出しているお医者さんの診察を受けましたか。

1. はい（Q 6 a へ）

2. いいえ（Q 10 へ）

Q 6 a. そのお医者さんは、何科のお医者さんでしたか。精神科医ですか、内科医ですか、その他のお医者さんでしたか。

1. 精神科医

2. 一般開業医

3. 内科医

4. 脳神経外科や神経内科

5. 産婦人科

6. その他（具体的に記入）:

（※いずれの場合も Q 10 へすすむ）

Q 7. その（お薬）はお医者さんから勧められたのですか。

1. はい（Q 7 a へ）

2. いいえ（Q 8 へ）

3. わからない（Q 8 へ）

Q 7 a. 何科のお医者さんから勧められたのですか。精神科医ですか、内科のお医者さんですか、その他のお医者さんでしたか。

1. 精神科医

2. 一般開業医

3. 内科医

4. 脳神経外科や神経内科

5. 産婦人科

6. その他（具体的に記入）:

（※いずれの場合も Q 10 へすすむ）

Q 8. 誰か他の人がこのお薬をあなたに勧めたのですか、それともご自分で使うことを決めたのですか。

1. 誰か他の人

2. 自分で決めた（Q 10 へ）

Q 9. それは誰ですか。（誰がこのお薬をあなたに勧めたのですか。）（「他には？」とたずねること。）

専門家以外：

1. 家族、親戚

2. 友人

3. 職場の同僚

4. 近所の人

5. その他の誰か（具体的に）:

専門家：

6. 看護婦

7. ソーシャルワーカー

8. 心理の専門家

9. カウンセラー

10. 住職、神父、司祭

11. その他の専門家（具体的に）:

Q10. その（お薬）に、自分ではいくら支払いましたか。保険や会社から支払われるお金は勘定にいれないでください。（これまでに明確になっていないなら、「それは1週間分ですか、1ヶ月分ですか、それとも？」とたずねる。）

_____（費用、円）を _____（期間）分に

Q11. 保険や会社から（も）、その（お薬）の費用が支払われましたか。

1. はい 2. いいえ（Q12へ） 3. わからない（Q12へ）

Q11a. それはいくらですか（保険や会社から、その（お薬）にいくら支払われましたか）。

_____（費用、円）を _____（期間）分に

Q12. あなたは、そのお薬を、錠剤でのみしましたか。あるいは、粉（こな）薬、貼り薬、水（みず）薬、吸入剤、または注射として使いましたか。（わかっているだけで聞かずに○をつける）

- | |
|-----------------|
| 1. 錠剤（Q13へ） |
| 2. 粉（こな）薬（Q13へ） |
| 3. 貼り薬（Q13へ） |
| 4. 水（みず）薬（Q13へ） |
| 5. 吸入剤（Q13へ） |
| 6. 注射（Q12aへ） |
| 7. その他（具体的に）: |

Q12a. どのくらいの頻度で注射をしましたか。

_____（日・週・月）に1回

（※Q18へすすむ）

Q13. のんだり使ったりするように言われた、お薬の量はどれくらいですか。

- | |
|-----------------|
| 1. 必要なだけ（Q14へ） |
| 2. 決まった量（Q15へ） |
| 3. ある範囲内で（Q15へ） |
| 8. わからない（Q16へ） |

Q14. 最大このくらいまでにしてください、と言われた量がありましたか。

- | | | |
|-------------|--------------|----------------|
| 1. はい（Q15へ） | 5. いいえ（Q16へ） | 8. わからない（Q16へ） |
|-------------|--------------|----------------|

Q 1 5. [これまでに明確になっていないなら] その量（最大量）はどのくらいでしたか。

数量 _____	単位（1つに○）を <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 錠</td></tr> <tr><td>2. 袋</td></tr> <tr><td>3. 小さじ</td></tr> <tr><td>4. 大さじ</td></tr> <tr><td>5. その他（具体的に）:</td></tr> </table>	1. 錠	2. 袋	3. 小さじ	4. 大さじ	5. その他（具体的に）:	期間（1つに○）に <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 日</td></tr> <tr><td>2. 週</td></tr> <tr><td>3. 月</td></tr> <tr><td>4. その他（具体的に）:</td></tr> </table>	1. 日	2. 週	3. 月	4. その他（具体的に）:
1. 錠											
2. 袋											
3. 小さじ											
4. 大さじ											
5. その他（具体的に）:											
1. 日											
2. 週											
3. 月											
4. その他（具体的に）:											

Q 1 6. あなたが実際にのんだり、使ったりした量は平均どのくらいでしたか。（面接者へ：必要に応じて詳しくたずねること）

数量 _____	単位（1つに○）を <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 錠</td></tr> <tr><td>2. 袋</td></tr> <tr><td>3. 小さじ</td></tr> <tr><td>4. 大さじ</td></tr> <tr><td>5. その他（具体的に）:</td></tr> </table>	1. 錠	2. 袋	3. 小さじ	4. 大さじ	5. その他（具体的に）:	期間（1つに○）に <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 日</td></tr> <tr><td>2. 週</td></tr> <tr><td>3. 月</td></tr> <tr><td>4. その他（具体的に）:</td></tr> </table>	1. 日	2. 週	3. 月	4. その他（具体的に）:
1. 錠											
2. 袋											
3. 小さじ											
4. 大さじ											
5. その他（具体的に）:											
1. 日											
2. 週											
3. 月											
4. その他（具体的に）:											

Q 1 7. (1つの錠剤や単位となる量) には何ミリグラム含まれているか知っていますか。（もし不明なら、そして聞いてもよい状況なら「お手元に薬ビンをまだお持ちで、調べてもらってもいいですか」

_____ ミリグラム または 9 9 9. わからない

Q 1 8. どのくらいの期間、そのお薬をのみましたか（使いましたか）。（面接者へ：数字と期間の単位を両方とも記録するよう注意すること。例えば、ただ「3」と記録するのではなく、「3週間」とすること）

_____ (数字を記入)	<table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td>1. 日</td></tr> <tr><td>2. 週</td></tr> <tr><td>3. ヶ月</td></tr> <tr><td>4. 年</td></tr> </table>	1. 日	2. 週	3. ヶ月	4. 年	(1つに○)
1. 日						
2. 週						
3. ヶ月						
4. 年						

Q 1 9. 何年の何月からお薬をのみはじめましたか。（面接者へ：日付に間違いのないように、月とともに年も記録すること）

_____ 年の _____ 月から

Q 2 0. [これまでに明確になっていないなら:] (現在もまだのんでいますか?)

1. はい 2. いいえ 6. 自発的に「必要な時だけ」と応えた

Q 2 1. この（お薬）は、どんな効き目があるのですか。どんな症状をこのお薬は改善すると思われたのですか。（「他には？」とたずねること）

Q 2 2. このお薬をのみはじめてからは、どのくらいの期間、症状が続きましたか。（面接者へ：問題が複数ある場合は、一番長く続いたものについて記録する）

_____（数字を記入）

1. 日	(1つに○)
2. 週	
3. ヶ月	
4. 年	

Q 2 3. このお薬のために、どのくらい、これらの症状はよくなりましたか。完全によくなりましたか、ほとんどですか、いくらかですか、少しですか、まったくよくならなかったですか。

1. 完全によくなった	2. ほとんどよくなった	3. いくらかよくなった
4. 少しよくなった	5. まったくよくならない (Q 2 5へ)	

Q 2 4. この（お薬）をのみはじめた後、どのくらいで効き目がではじめましたか。

_____（数字を記入）

1. 日	(1つに○)
2. 週	
3. ヶ月	
4. 年	

Q 2 5. この（お薬）をのんで（使って）、はじめには予想しなかったような何かよい効果がありましたか。のみはじめる前には知らなかったような、よい効き目がありましたか。

1. はい	2. いいえ・特になし (Q 2 6へ)
-------	----------------------

↓
Q 2 5 a. それはどんな効果でしたか、簡単に教えてください（「他には？」とたずねる）。

Q 2 6. では、この（お薬）には、何かよくない作用がありましたか。

1. はい 2. いいえ (Q 2 8 へ)



Q 2 7. 一番困った、よくない作用は何でしたか。（「他には？」とたずねる）

- | | |
|------------------------|---------------|
| A. 睡眠の障害 | I. 性欲の減退 |
| B. 視力の障害 | J. 性活動の問題 |
| C. 吐き気 | K. 集中力の低下 |
| D. 嘔吐
(実際に吐いてしまうこと) | L. 手のふるえ |
| E. 口が渴く | M. 自制心がなくなる |
| F. 不安 | N. 疲労感・気力の低下 |
| G. イライラ感 | O. その他（具体的に）: |
| H. じっとしてられない感じ | _____ |

Q 2 8. 例えば、他の人からうかがった副作用の例として（以下のAからHくらいまでを簡単にあげる）があります。その他の副作用について思い出される助けになるかも知れません。この（薬の名前）のために、このような副作用がありましたか。

- | | |
|------------------------|---------------|
| A. 睡眠の障害 | I. 性欲の減退 |
| B. 視力の障害 | J. 性活動の問題 |
| C. 吐き気 | K. 集中力の低下 |
| D. 嘔吐
(実際に吐いてしまうこと) | L. 手のふるえ |
| E. 口が渴く | M. 自制心がなくなる |
| F. 不安 | N. 疲労感・気力の低下 |
| G. イライラ感 | O. その他（具体的に）: |
| H. じっとしてられない感じ | _____ |

Q 2 9. こうした副作用のために、この（お薬）を使うのをやめなくてはなりませんでしたが。

1. はい 2. いいえ

Q 3 0. 最後の質問です。この（お薬）をのまれた経験を全部考えあわせた上で、もし今回のような問題を治すために何かをすとしたら、あなたはこのお薬をもう一度のんだり、つかったりするでしょうか。

1. はい 2. いいえ

（これまで聞いた薬以外に、他の薬があれば、「パートII 薬についての記録」をくりかえしたずねること。もしなければ、電話面接は終了）。



どうもありがとうございました。大変参考になりました。お時間をとらせて、申し訳ありませんでした。

厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）
分担研究報告書

精神科受療者における精神安定剤および睡眠薬の乱用・依存
に関する研究

分担研究者 宮里勝政 聖マリアンナ医科大学神経精神科助教授
研究協力者 福島 端 聖マリアンナ医科大学神経精神科助手

研究要旨：総合病院精神科外来受診者を対象としてWHOの統合国際診断面接CIDIより抜粋した精神安定剤・睡眠薬の乱用・依存症診断面接表を用い面接調査を実施した。米国精神医学会の診断基準DSM-IVにおける物質乱用および依存について解析し以下の結果を得た。

1. 調査対象全体 207 名（男性 79 名女性 128 名）における乱用は 13.5%（男性 11.4%，女性 14.8%）、依存は 6.8%（男性 6.3%，女性 7.0%）に認められた。
2. 精神安定剤あるいは睡眠薬の服用経験者 199 名（男性 76 名女性 23 名）におけ乱用は 14.1%（男性 11.8%，女性 15.4%）、依存は 7.0%（男性 6.6%，女性 7.3%）に認められた。
3. 全体での乱用の年齢層別頻度は、40 歳代 20.0%，30 歳代 15.2%，20 歳代 15.1%，50 歳代 12.5%，60 - 65 歳 11.1%，65 歳以上 7.5%であり、19 歳以下には乱用者はいなかった。（男性；30 歳代>20 歳代>50 歳代>40 歳代、女性；40 歳代>20 歳代>60 - 64 歳>50 歳代>65 歳以上>30 歳代）
4. 全体での依存の年齢層別頻度は、20 歳代 15.1%，30 歳代 6.1%，40 歳代 5.7%，60-65 歳 5.6%，65 歳以上 2.5%であり、19 歳以下と 50 歳代には依存者はいなかった（男性；30 歳代>40 歳代>20 歳代、女性；20 歳代>60 - 64 歳>65 歳以上）。
5. 精神安定剤あるいは睡眠薬の服用経験者での乱用の年齢層別頻度は、19 歳以下では乱用者はなく、40 歳代 20.0%，20 歳代 15.7%，30 歳代 15.6%，50 歳代 13.0%，60 - 65 歳 11.1%，65 歳以上 8.1%であった（男性；20 歳代>30 歳代>40 歳代>50 歳代、女性；40 歳代>20 歳代>60 - 64 歳>50 歳代>65 歳以上>30 歳代）。
6. 服用経験者中での依存の年齢層別頻度は、20 歳代 15.7%，30 歳代 6.3%，40 歳代 5.7%，60 - 65 歳 5.6%，65 歳以上 2.7%，19 歳以下と 50 歳代には依存者はいなかった（男性；30 歳代、40 歳代>20 歳代、女性；20 歳代>60 - 64 歳>65 歳以上）。
7. 乱用の内容では薬物使用のために勉強や仕事や家事への支障、危険な状況での反復使用が多く、依存の内容では使用中止または減量欲求、薬物使用欲求、必要性、中止困難感が多かった。

A. 研究目的

薬物乱用や依存の発生には当該薬物との接触機会がひとつの要因であることか

ら、精神科受診者ではその機会が特に多いといえる。そこで、精神科受診者における精神安定剤（抗不安薬）・睡眠薬の乱

用・依存症の実態を明らかにすることを目的とした。

B. 方法

対象は総合病院（聖マリアンナ医科大学病院）精神科外来受診者である。これらの対象に精神保健指定医の資格をもつ2名の精神科医が面接調査を行った。2000年11月～12月の間に順次面接を続け総数が200名を越えた日に終了とした。得られた調査資料から本年度は米国精神医学会の診断分類DSM-IVにおける物質乱用と依存の頻度を中心に解析した。

面接にはWHOの統合国際診断面接CIDIより抜粋した精神安定剤・睡眠薬の乱用・依存症診断面接表（付録、川上憲人訳）を用いた。面接は文書による説明と同意の手続きを経てから行った。尚、研究の実施に先立ち聖マリアンナ医科大学生命倫理委員会にて承認を得た。

C. 結果

1. 対象者背景

精神科外来受診者207名から精神安定剤・睡眠薬の乱用・依存症のCIDI面接法による調査結果が得られた。受診順に面接を進めたが、同意が得られなかったのは1名のみであり、この非同意には内因性精神障害による精神症状が関与していた。

全調査対象207名（男性79名女性128名）の年齢層別構成は、19歳以下4名（男性0名、女性4名）、20歳台53名（男性24名、女性29名）、30歳台33名（男性14名、女性19名）、40歳代35名（男性14名、女性21名）、50歳代24名（男性8名、女性16名）、60-65歳18名（男性4名、女性14名）、65歳以上40名（男性15名、女性25名）であった。

これらのうち精神安定剤あるいは睡眠薬の服用経験のある対象は199名（男性76名、女性123名）であった。そ

の年齢層別構成は19歳以下3名（男性0名、女性3名）、20歳代51名（男性23名、女性28名）、30歳台32名（男性14名、女性18名）、40歳代35名（男性14名、女性21名）、50歳代23名（男性8名、女性15名）、60-65歳18名（男性4名、女性14名）、65歳以上37名（男性13名、女性24名）であった。

2. 物質乱用および依存の頻度（表1-1, 1-2, 1-3, 2-1, 2-2, 2-3）

DSM-IV乱用は総受診者の13.5%（男性11.4%、女性14.8%）に認められた。DSM-IV依存は総受診者の6.8%（男性6.3%、女性7.0%）に認められた（表1-1, 1-2, 1-3）。

これらのなかで精神安定剤あるいは睡眠薬の服用経験があった対象199名（男性76名、女性123名）におけるDSM-IV乱用および依存の頻度は次の通りであった。DSM-IV乱用は服用経験者の14.1%（男性11.8%、女性15.4%）に認められた。DSM-IV依存は服用経験者の7.0%（男性6.6%、女性7.3%）に認められた（表2-1, 2-2, 2-3）。

3. 物質乱用および依存の性別年齢層別頻度

1) 総受診者での性別年齢別特徴（表1-1, 1-2, 1-3）

総受診者中のDSM-IV乱用は13.5%にみられた。年齢層別に頻度を多い順にみると以下のようなになる。40歳代20.0%、30歳代15.2%、20歳代15.1%、50歳代12.5%、60-65歳11.1%、65歳以上7.5%、19歳以下には乱用者はいなかった。

男性総受診者中のDSM-IV乱用は11.4%にみられた。年齢層別頻度を多い順にみると以下のようなになる。30歳代21.4%、20歳代16.7%、50歳代12.1%、40歳代7.1%、19歳以下、60-64歳、65歳以上では乱用者はいなかった。

女性総受診者中のDSM-IV乱用は

14.8%にみられた。年齢層別頻度を多い順にみると以下ようになる。40歳代28.6%，20歳代14.3%，60-64歳14.3%，50歳代12.5%，65歳以上12.0%，30歳代10.5%，19歳以下には乱用者はいなかった。

総受診者中のDSM-IV依存は6.8%にみられたが、年齢層別に頻度を多い順にみると以下ようになる。20歳代15.1%，30歳代6.1%，40歳代5.7%，60-65歳5.6%，65歳以上2.5%，19歳以下と50歳代には依存者はいなかった。

男性総受診者中のDSM-IV依存は6.3%にみられたが、年齢層別頻度を多い順にみると以下ようになる。30歳代14.3%，40歳代14.3%，20歳代4.2%，19歳以下，50歳代，60-64歳，65歳以上では依存者はいなかった。

女性総受診者中のDSM-IV依存は7.0%にみられたが、年齢層別頻度を多い順にみると以下ようになる。20歳代25.0%，60-64歳7.1%，65歳以上4.0%，その他の年齢層には依存者はいなかった。

2) 精神安定剤・睡眠薬の服用経験者での性別年齢別特徴(表2-1, 2-2, 2-3)

服用経験者全体の中でのDSM-IV乱用は14.1%にみられたが、年齢層別では以下の通りである。19歳以下では乱用者はなく、20歳代15.7%，30歳代15.6%，40歳代20.0%，50歳代13.0%，60-65歳11.1%，65歳以上8.1%であった。

男性服用経験者中のDSM-IV乱用は11.8%にみられたが、年齢層別では以下の通りである。19歳以下では乱用者はなく、20歳代17.4%，30歳代21.4%，40歳代7.1%，50歳代12.1%，60-64歳0%，65歳以上0%であった。

女性服用経験者中のDSM-IV乱用は15.4%にみられたが、年齢層別では以下の通りである。40歳代28.6%，20歳代14.3%，60-64歳14.3%，50歳代13.3%，65歳以上12.5%，30歳代11.1%，19歳以下には乱用者はいなかった。

服用経験者全体の中でのDSM-IV依存は7.0%にみられたが、年齢層別に頻度を多い順にみると以下ようになる。20歳代15.7%，30歳代6.3%，40歳代5.7%，60-65歳5.6%，65歳以上2.7%，19歳以下と50歳代には依存者はいなかった。

男性服用経験者中のDSM-IV依存は6.6%にみられたが、年齢層別頻度を多い順にみると以下ようになる。30歳代14.3%，40歳代14.3%，20歳代4.3%，その他には依存者はいなかった。

女性服用経験者中のDSM-IV依存は7.3%にみられたが、年齢層別頻度を多い順にみると以下ようになる。20歳代25.0%，60-64歳7.1%，65歳以上4.2%，その他の年齢層には依存者はいなかった。

3. 乱用および依存の診断項目上の特徴

乱用の内容では薬物使用のために勉強や仕事や家事への支障，危険な状況での反復使用が多かった。依存の内容では使用中または減量欲求，薬物使用欲求，必要性，中止困難感が多かった。

D. まとめ

精神安定剤および睡眠薬の乱用・依存に関する精神科領域の文献を概観した結果では、ハイリスク集団である精神科受療者における乱用・依存の観点からの知見は不十分な状況にある(宮里, 2, 000)。そこで、総合病院精神科外来受診者を対象としてWHOの統合国際診断面接CID Iより抜粋した精神安定剤・睡眠薬の乱用・依存症診断面接表を用い面接調査を実施した。得られた207名(男性79名女性128名)の資料から、米国精神医学会の診断基準DSM-IV物質乱用および物質依存に相当する対象がそれぞれ13.5%および6.8%存在することがわかった。そのほか、乱用者および依存者の性別・年齢層別頻度を得ることができた。

今後、乱用および依存に相当する患者での詳細な分析を行い、乱用および依存

の危険因子および促進因子をまとめ、これらに基づいて精神安定剤・睡眠薬の乱用・依存の予防と対処のためのマニュアルづくりが必要と考えられる。

E. 文献

宮里勝政：精神安定剤および睡眠薬依存

に関する精神科臨床の現況. 厚生科学医薬安全総合研究報告書「精神安定剤および睡眠薬の乱用・依存に関する研究」（主任研究者：川上憲人）平成12年度分担研究報告書. 2000.

表1-1 乱用および依存者割合（男女総受診者）
年齢層別DSM-IV診断

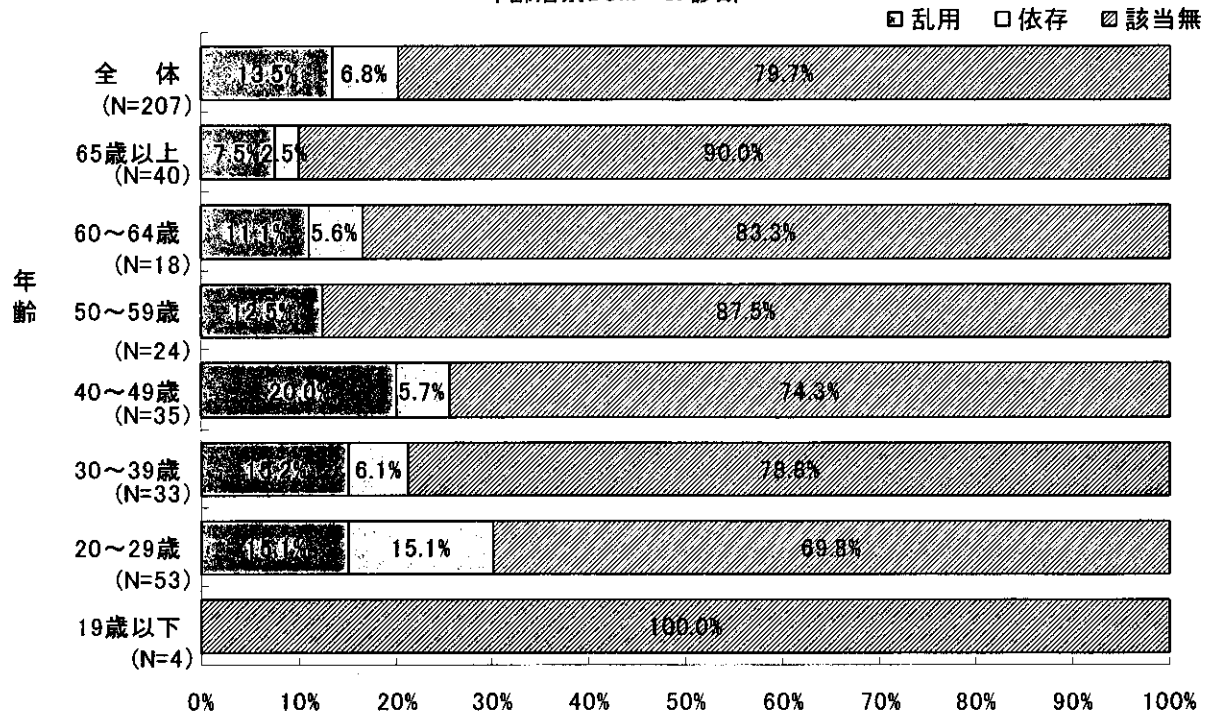


表1-2 乱用および依存者（男性総受診者）
年齢層別DSM-IV診断

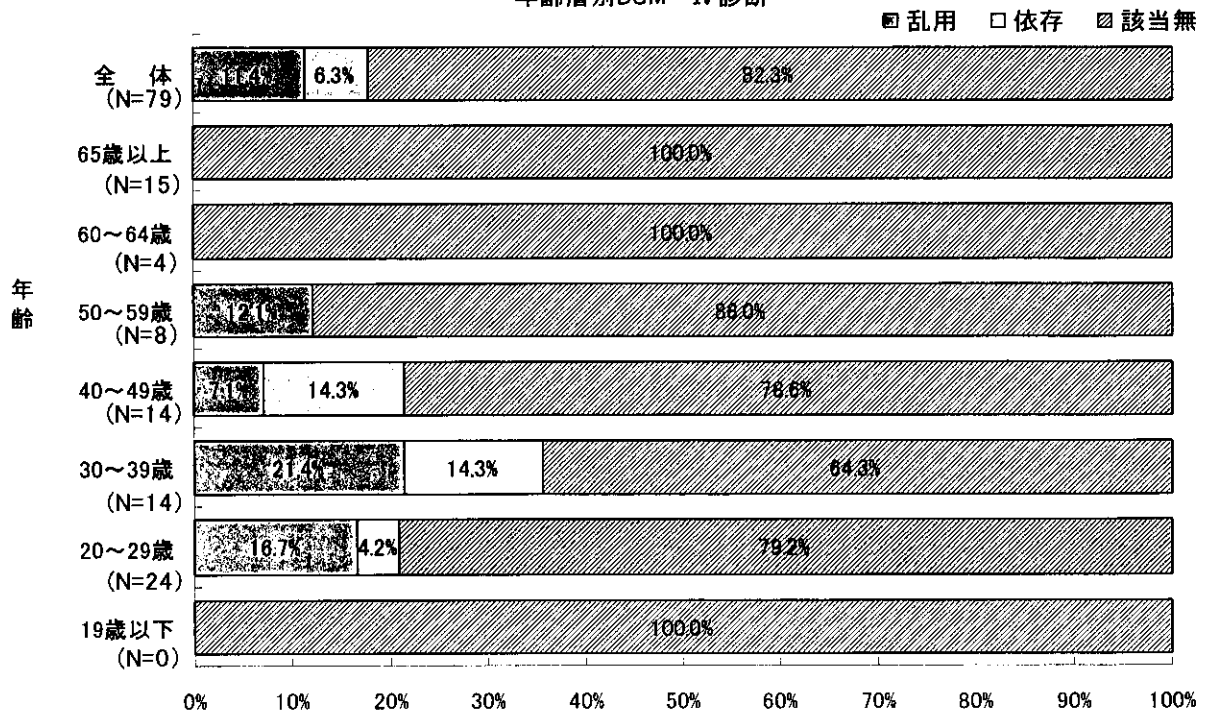


表1-3 乱用および依存者割合（女性総受診者）
年齢層別DSM-IV診断

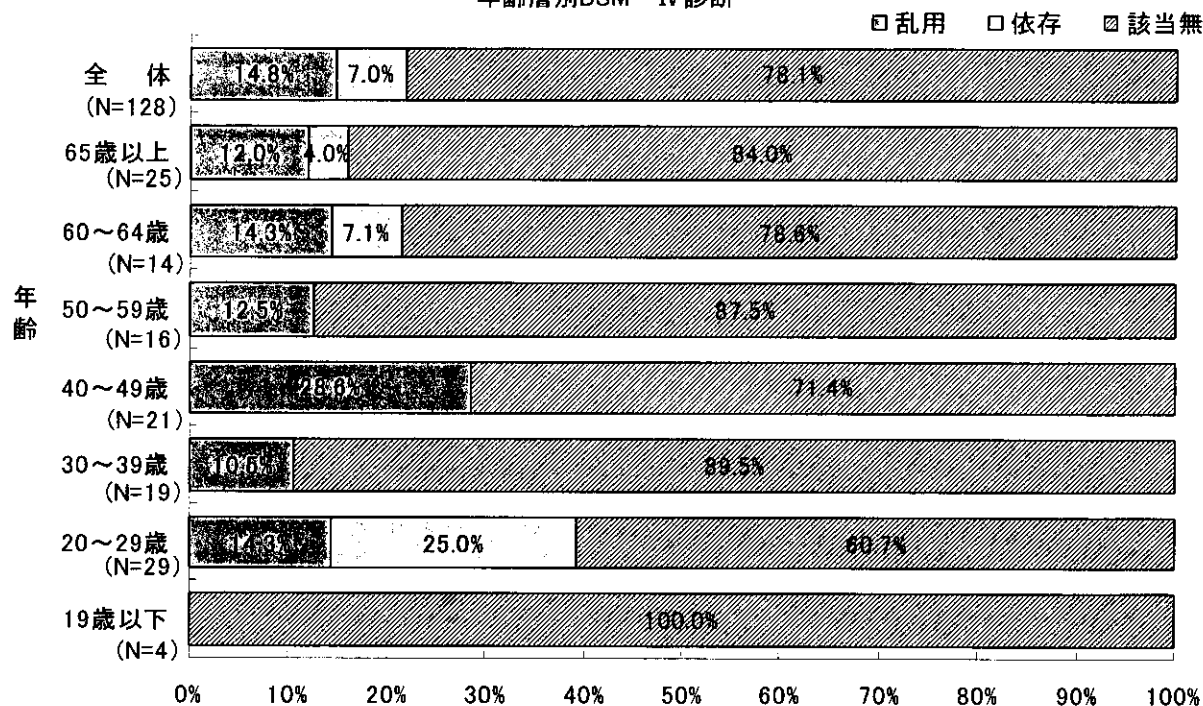


表2-1 乱用および依存者割合（男女服用歴有り群）
年齢層別DSM-IV診断

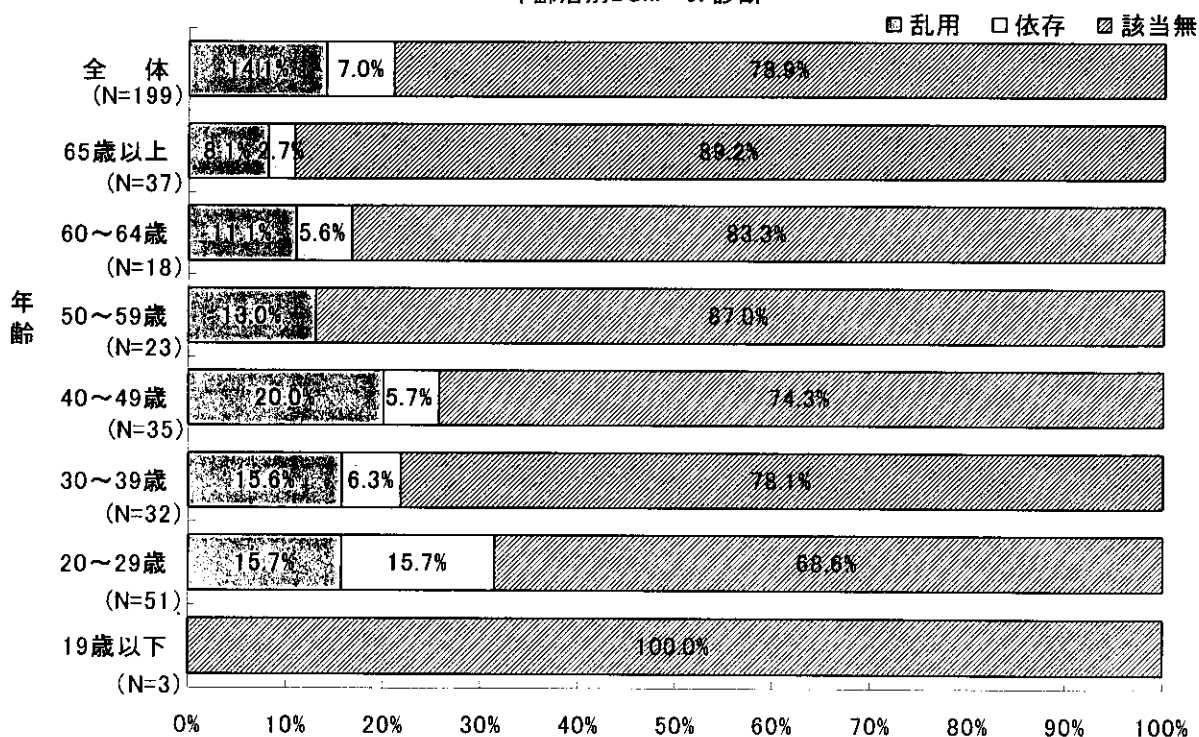


表2-2 乱用および依存者割合（男性服用歴有り群）
年齢層別DSM-IV診断

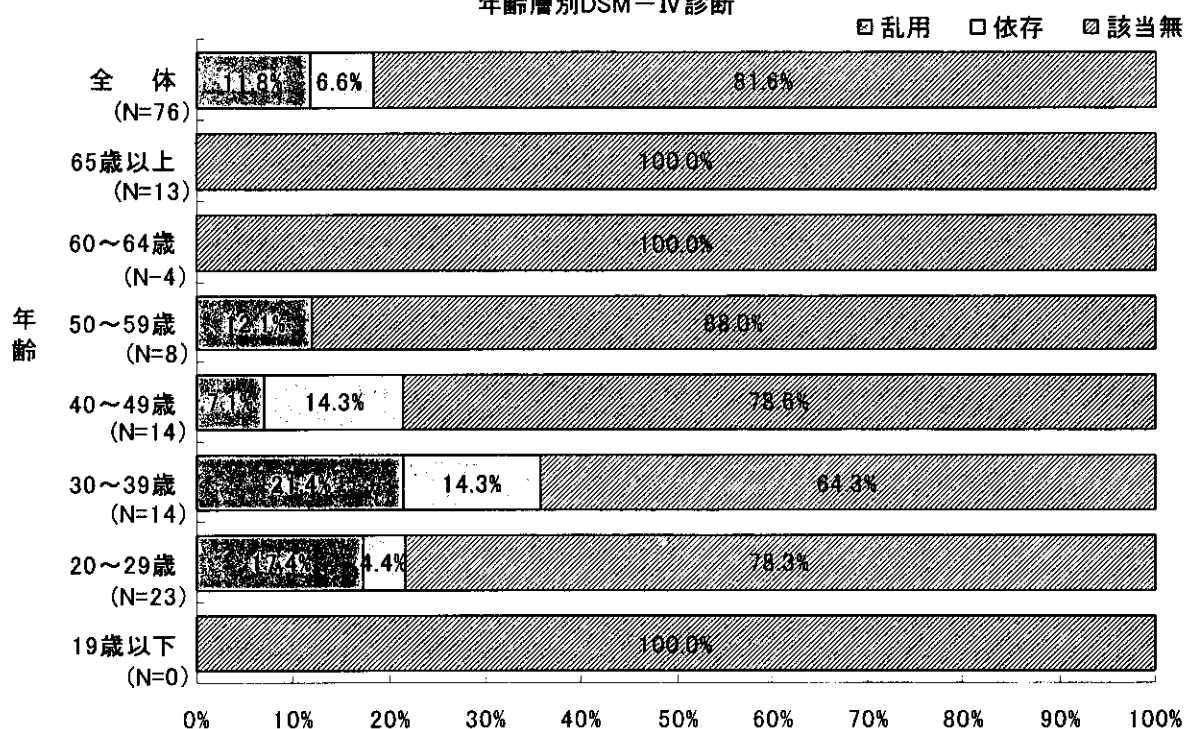
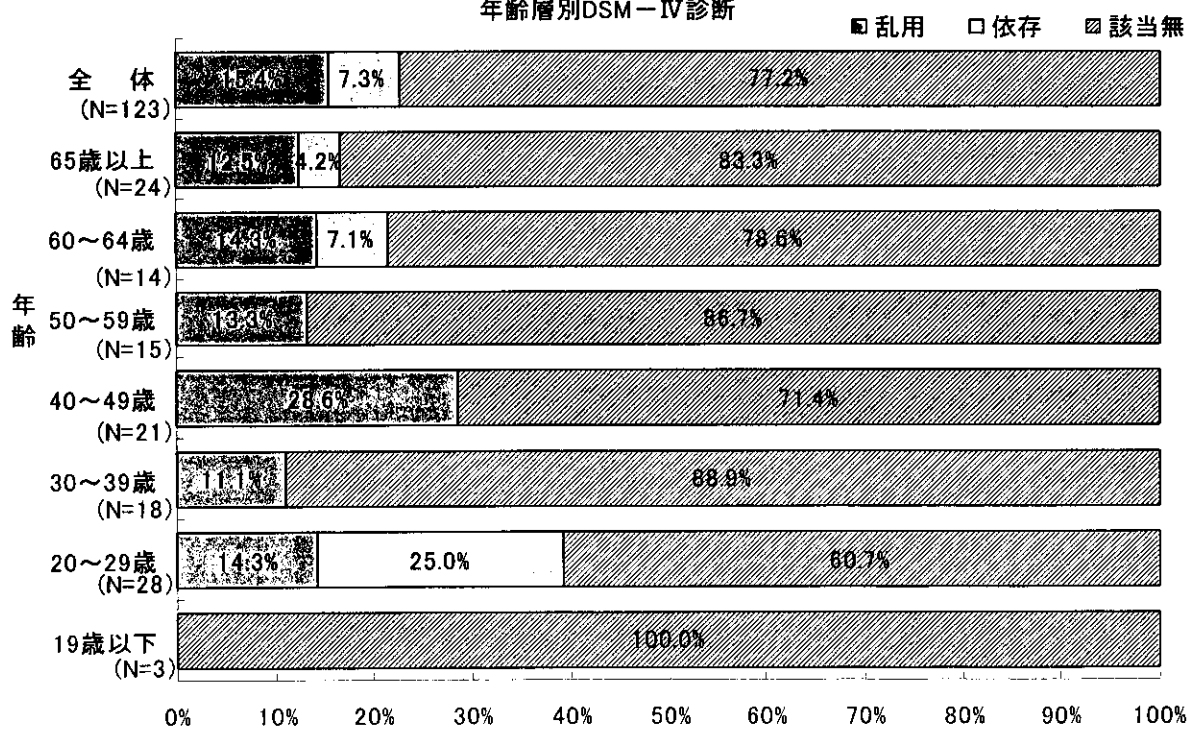


表2-3 乱用および依存者割合（女性服用歴有り群）
年齢層別DSM-IV診断



付録：睡眠薬・精神安定剤の乱用・依存症診断面接（CIDI2.1 抜粋）

対象者氏名 _____ 年齢 _____ 歳
 面接年月日 20____年____月____日

	質問	回答欄	診断用
L1	「さて、あなたの薬に関する経験についてうかがいたと思います」 「これまでに、あなたは医者から睡眠薬または精神安定剤を処方されましたか」	いいえ (L2 へ) はい	
	A. 「睡眠薬または精神安定剤を、指示されたよりも多く使ったり、処方された期間よりも長く使ったことがありますか」	いいえ はい	
L2	「睡眠薬または精神安定剤を、リラックスする、気分をよくする、元気を出す、いい気持ちになる、より活動的になる、または注意力を高めるために、医者から処方されないのに自分で6回以上使ったことがありますか」	いいえ はい	
L3	質問 L1, L2 に「はい」がなければ、質問を終了する。		
L4	それは何と言う薬ですか。 (薬物名を記入)		
L7	「あなたが最も回数多く睡眠薬または精神安定剤を使っていた時のことを思い出して下さい。その時はどのくらいの頻度でその薬を使っていましたか。」	ほとんど毎日 週に3～4日 週に1～2日 月に1～3日 月に1回以下	
	A. 「その頻度で睡眠薬または精神安定剤を最初に使いはじめたのは何歳の時でしたか」	_____ 歳	
	B. 「その頻度で睡眠薬または精神安定剤を使っていたいちばん最近は何歳の時でしたか」	_____ 歳	
	C. 「いちばん最近に少しでも睡眠薬または精神安定剤を使ったのはいつですか」	1ヶ月以内 6ヶ月以内 1年以内 1年以上前 _____ 歳	
	乱用について		
L8	「睡眠薬または精神安定剤を使ったために、学校の勉強や、仕事や、家事に支障がおきたことがありましたか」	いいえ はい#	DA1
L9	「これまでに、睡眠薬または精神安定剤を使ったために、家族や友人との間や、職場や学校で問題がおきたことがありましたか」	いいえ (A へ) はい# (B へ)	DA3
	A. 「これまでに、睡眠薬または精神安定剤を使ったために、警官との間で問題がおきたことがありましたか」	いいえ はい#	DA3
	B. 「睡眠薬または精神安定剤のためにこれらの問題が起きていると分かった後も、それを使い続けましたか」	いいえ はい#	DA4
L10	「これまでケガをするかもしれない状況、例えば自転車にのったり、車やボートを運転したり、機械を使ったりしながら、睡眠薬または精神安定剤を繰り返し使ったことが何度かありましたか」	いいえ はい#	DA2

分担研究報告書（宮里）

	質問L8からL10に「はい#」1つもがなければ、質問L12へ		
L11	睡眠薬または精神安定剤を使ったために、これらの問題がおきた最初はいつでしたか	1ヶ月以内 6ヶ月以内 1年以内 1年以上前 _____歳	
	最終：「いちばん最近にあったのはいつでしたか」	1ヶ月以内 6ヶ月以内 1年以内 1年以上前 _____歳	
	依存について		
L12	「これまでに、同じ効き目を得るために以前よりずっと多く睡眠薬または精神安定剤を必要とするようになったり、あるいは同じ量を使っても、以前より効果が少ないことがありましたか	いいえ はい#	DD1 ID4
L13	「これまでに、どうしても抵抗できないくらい強く、睡眠薬または精神安定剤を使いたい、使う必要があったり、睡眠薬または精神安定剤を使うのをやめることができないと感じたことがありましたか	いいえ はい#	ID1
L14	A. 「これまでに、睡眠薬または精神安定剤をやめたり減らしたいと思ったことがありましたか」	いいえ（L15へ） はい#	ID2
	B. 「いつも少なくとも1ヶ月間は減らすことができましたか」	いいえ# はい	DD4
L15	これまでに、睡眠薬または精神安定剤を使ったり、手にいれたり、その効果から抜け出したりするのに長い時間をかけたことがありましたか	いいえ はい#	DD5 ID5
L16	「これまでに、睡眠薬または精神安定剤を、初めのつもりよりずっと多くあるいは長い期間使ったり、あるいは睡眠薬または精神安定剤を使いはじめたら、酔っぱらったり気持ちがすっかりよくなるまで止めることが難しかったことがよくありましたか	いいえ はい#（L17へ）	DD3 ID2
L17	「これまでに、睡眠薬または精神安定剤を止めたり減らしたりして数時間から数日以内にカードに書いてあるような問題のどれかが起きたことがありましたか	いいえ（L18へ） はい#	DD2 ID3
	B「これまでに、このカードにあるような問題を起こらないようにするために睡眠薬または精神安定剤や、これと似た別の薬を使うことがありましたか	いいえ はい#	DD2 ID3
L18	「これまでに、睡眠薬または精神安定剤をうっかりして使い過ぎたとか、睡眠薬または精神安定剤のために、せきが続くとか、発作（けいれん）、感染、肝炎、腫物、エイズ、心臓疾患、またはケガなどのような、何か健康上の問題が起きたことがありましたか	いいえ はい#	
	B. 「睡眠薬または精神安定剤のためにこうした健康上の問題が起きたと分かった後も、それを使い続けましたか	いいえ はい#	DD7 ID6
L19	「これまでに、睡眠薬または精神安定剤のために、何か精神的、心理的な問題が起きたことがありましたか。例えば、物事に興味がなくなった、ゆううつになった、疑い深くなった、奇妙な考えを抱くようになったことなどがありましたか	いいえ（L20へ） はい#	
	B. 「睡眠薬または精神安定剤のためにこうした精神的な問題が起	いいえ	DD7

分担研究報告書（宮里）

	きたと分かった後も、それを使い続けましたか」	はい#	ID6
L20	「これまでに、睡眠薬または精神安定剤を手に入れたり使ったりするために、例えばスポーツ、仕事、友人や親類との付き合いなどの重要な活動をやめたり大幅に減らしたことがありましたか」	いいえ (L21へ) はい#	
	A. 「睡眠薬または精神安定剤を使うために、まるまる1か月、こうしたことがありましたか。あるいは2ヶ月間に数回ありましたか」	いいえ はい#	DD6 ID5
L21	質問 L12~L20 に、3つ以上「はい#」がなければ質問 L23 へ。		
L22	「睡眠薬または精神安定剤のために、いくつかの問題がおきたことをうかがいました。これまでに、睡眠薬または精神安定剤のために、これらの問題のうち3つ以上が同じ1年間におきたことがありましたか」	いいえ (L23へ) はい	
	初回：同じ1年間に睡眠薬または精神安定剤のために3つ以上の問題が起きた最初の時、あなたは何歳でしたか。	_____ 歳	
	最終：同じ1年間に睡眠薬または精神安定剤のために3つ以上の問題がいちばん最後にあった時、あなたは何歳でしたか。	_____ 歳	
L23	質問 L12~L20 に、1つも「はい#」がなければ質問終了。		
L24	初回：睡眠薬または精神安定剤を使ったために問題がおきた、最初はいつでしたか」	1ヶ月以内 6ヶ月以内 1年以内 1年以上前 _____ 歳	
	最終：「いちばん最後にあったのはいつでしたか」	1ヶ月以内 6ヶ月以内 1年以内 1年以上前 _____ 歳	